

インナー大会プレゼン部門 2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) ソウカ	フリガナ) ケイエイ	フリガナ) ヤスダ
創価	経営	安田ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 動画 (有・無)
フリガナ) チームアクト	フリガナ) サイトウ アヤネ	8人	有 (音声ファイル)
Team ACT	齋藤 彩音		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール (具体的に使用するツールを明記してください)

なし

研究テーマ (発表タイトル)

SMILE MORE プロジェクト ～みんなが認知症予防を行う社会へ～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

私たちの目的は認知症の予防を多くの人が行うことで**認知症の与える社会的影響を減らす**ことです。認知症は本人の戸惑い、その介護だけではなく、社会でも認知症患者の徘徊による行方不明、事故などその影響は計り知れません。発症してしまうと完治が難しい認知症ですが、**予防をすることで発症を防ぐことができる**と言われています。私たちはフィンガー研究をもとに、運動、食事、知的トレーニングを身近な媒体で提案できれば予防をする人が増加すると考え、50～70代をターゲットに認知症予防を促進するアプリケーションを提案します。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

認知症とは「一度正常に達した認知機能が後天的な脳の障害によって持続的に低下し、日常生活や社会生活に支障をきたすようになった状態」(日本神経学会)を指します。認知症が発症した場合、日常生活が徐々に送れなくなることによる不安や戸惑いは測りしれません。そして、影響を受けるのは当事者だけではありません。家族への影響も甚大です。生命保険文化センターの調査(2015)によると、**認知症の介護期間と他の病気を含む介護期間を比べると、認知症のほうが5年以上介護をしている人が16%も高く、全体的に介護期間の平均が長いことが分かります。また、1日の介護時間が長く、介護者の精神的負担も深刻**であると言えます。

本人や家族だけでなく地域の人々、警察など様々な人や機関に影響が出ています。警視庁によると、2016年現在、**12,000人以上の認知症患者が徘徊によって行方不明**になっており、うち**479件は死亡事故**につながっています。

高齢化に伴い、認知症患者は増加し続けており、2012年に462万人であった患者数が**2025年には700万人**に達すると推測されています。佐渡（2017）は、**認知症にかかる社会的費用は、2015年現在、年間15兆円から2060年に24.3兆円まで増加**すると推計しており、その影響は深刻であると言えます。

以上のことから、私たちは**認知症の増加による社会的影響**を問題視しています。

3. 研究テーマの課題

私たちは**認知症の影響を受ける人を減らすためには認知症患者そのものを減らすことが不可欠**だと考えました。前述のように、認知症はかかると完治が難しいことから、予防が重要です。ところが、実際に予防を行っている人は多くありません。私たちの独自調査(八王子市周辺での路上アンケートN=750)によると、**50～70代の認知症予防を行っていない人は68%**もいました。これらのことから私たちは課題を「**予防ができていないこと**」としました。

その理由を調査したところ、予防を行っていない人のうち、**47%の人が「具体的な予防方法がわからない」と**回答しました。しかし、実際にお話を伺ってみると、テレビ番組などで予防について知り、1度は行っているにもかかわらず予防方法を忘れてしまったという方が多く見受けられました。そこで、私たちは認知症患者の増加を抑制する1つの方法として「**具体的な予防方法を提示し続けること**」で認知症予防を推進することにしました。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

図1



アプリイメージ図

私たちが提案するのは、**認知症予防アプリ「すもあ」**です。アプリの中のキャラクター「すもあ」が会話を通して予防を提案してくれます。内容は、フィンガー研究に基づき、自分一人で行える**①運動、②脳トレ、③食事**の3つの機能で構成されています。①運動ではウォーキングと体操、②脳トレでは、パズルや計算問題等4種類のトレーニングを適宜提供します。③食事ではバランスのとれたレシピの紹介、さらに必要に応じて宅食サービスを斡旋します。図1はアプリのイメージ図です。

本アプリの最大の特徴は、**会話を通して日々の状況に合わせた予防方法を毎日提案してくれること**です。すもあは会話をしている内に、内容を記憶し、①、②、③について適正なアドバイスをします。

また、私たちはシニアが快適にこのアプリを使えるよう、利用のサポートを行います。すもあに使い方を質問すると利用方法を教えてください。また、希望者には紙媒体での説明書を送付します。サポートにより、スマートフォンに慣れていないシニアの方も、安心してこのアプリを利用することができます。

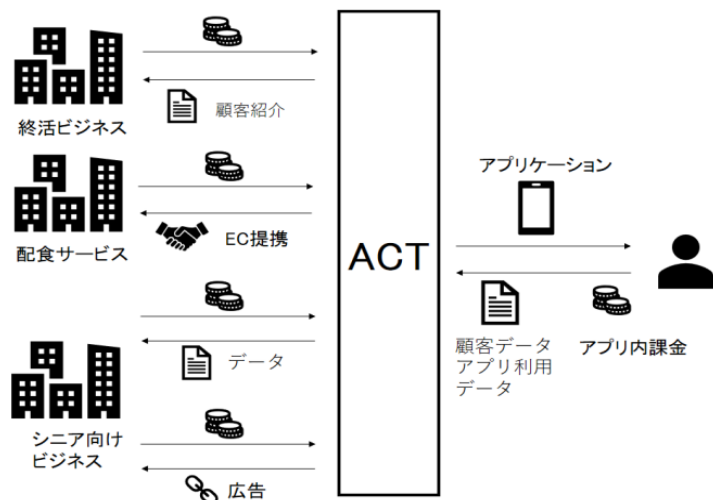


図2 ビジネスモデル概要

図 2 に表しているのが私たちのビジネスモデルです。私たちはシニアを対象に無料でアプリケーションを提供し、その顧客情報やアプリの利用状況などのデータを収集します。そして、そのデータを必要としている企業に提供し、情報料、斡旋料をいただきます。また、配食サービス会社などとの提携、広告費でも収益を得ようと考えています。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

私たちが行うことは、主に、①**アプリの開発**、②**アプリの販売促進**です。まず、開発は共同開発していただける企業と提携し行います。現在日本電気株式会社（NEC）、アローサルテクノロジー株式会社と交渉中です。販売促進は、①イベント兼体験会の開催、②インターネット上での広報、③新聞の折り込みチラシ、で実施します。イベント兼体験会では、料理やスポーツなど他のイベントと掛け合わせ、認知症予防の啓発、アプリの PR を行っています。インターネット広告としては、自社サイトや高齢者向けのサイトでのバナー広告、フェイスブックなどの SNS、プレスリリースなどで広報していきます。

2月にプロジェクトを開始してから現在までの期間、私たちは、①**専門家や企業へのフィールドワークの実施**、②**アンケート調査やインタビュー調査の実施**、③**イベントの開催**、④**アプリの機能を再現したチャットボットの作成**、⑤**チャットボットを用いたアプリの機能に関するプレテスト**、などを行いました。

6. 結果や今後の取り組み

私たちの活動内容の結果をそれぞれの項目ごとに説明していきます。

①私たちは専門家、企業などへの訪問、路上アンケートなどフィールドワークを計 **108 回**行いました。②問題、原因特定のためのアンケートを東京都の路上で **750 人**に実施しました。またアプリのニーズ調査のためのアンケートをパソコン教室に通っているシニアなど **121 人**に実施し、**80%の方から「利用したい。」**との回答を頂きました。③9月17日にイベントを開催し、台風18号の中、**30 人**集めることができました。そして、そのうち**90%がイベント後のアンケートにて「予防への意識が向上した。」**との回答を頂きました。④9月5日、12日に提供したいアプリの機能に類似した機能を搭載したチャットボットを NEC の社員の方と共同で開発しました。⑤そして、そのチャットボットを用いた**プレテストを 72 人**に実施しました。1週間後アンケートにお答えいただいた **51 人中 36 人が今まで予防を行っていなかったものの、本チャットボットで予防の提案をしてくれることでそのうちの 25 人が予防を行った**と回答しました。今後の大まかな動きとしては、引き続きプレテストの実施、アプリの開発、販売、販売促進を行っていきます。

7. 参考文献

- ・厚生労働省「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」（アクセス日 2017/8/1）
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000064084.html>
- ・平成 28 年厚生労働省「高齢社会白書」（アクセス日 2017/7/12）
http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/zenbun/28pdf_index.html
- ・佐渡充洋「平成 26 年度我が国における認知症の経済的影響に関する研究」（アクセス日 2017/8/20）
<http://csr.keio.ac.jp/pdf/2014%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E8%AA%8D%E7%9F%A5%E7%97%87%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E7%9A%84%E3%82%B3%E3%82%B9%E3%83%88%E7%B7%8F%E6%8B%AC%E5%88%86%E6%8B%85%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8.pdf>
- ・警察庁「平成 28 年行方不明者の状況について」（アクセス日 2017/8/15）
<https://www.npa.go.jp/safetylife/seianki/fumei/H28yukuehumeisya.pdf>
- ・佐渡充洋「2014 年度認知症社会的コスト総括分担報告書」（アクセス日 2017/8/16）
http://csr.keio.ac.jp/cmswp/wp-content/uploads/2015/11/2014_年度認知症社会的コスト総括分担報告書.pdf
- ・生命保険文化センター「生命保険に関する全国実態調査」（アクセス日 2017/6/23）
http://www.jili.or.jp/press/2015/pdf/h27_zenkoku.pdf
- ・鳥羽 研二「認知症高齢者の早期発見 臨床的観点から」（アクセス日 2017/8/15）

https://www.jstage.jst.go.jp/article/geriatrics/44/3/44_3_305/_article/-char/ja/

- ・日本予防理学療法学会「認知症予防のための運動効果とこれからの課題」（アクセス日 2017/8/10）
https://www.jstage.jst.go.jp/article/rigaku/42/8/42_42-8_104/_pdf
- ・認知症患者の現状と認知症対策（アクセス日 2017/8/5）
https://www.shaho.co.jp/shaho/shop/usr_data/sample/16460-sample.pdf
- ・大武美穂子「ウェルネスのための ICT : 3. 認知症予防に役立つ ICT -防ぎ得る認知症にかからない社会に向けて-」（アクセス日 2017/8/19）
https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/index.php?active_action=repository_view_main_item_detail&page_id=13&block_id=8&item_id=112581&item_no=1
- ・「A 2 year multidomain intervention of diet, exercise, cognitive training, and vascular risk monitoring versus control to prevent cognitive decline in at-risk elderly people (FINGER): a randomized controlled trial」（アクセス日 2017/8/14）
http://ac.els-cdn.com/S0140673615604615/1-s2.0-S0140673615604615-main.pdf?_tid=694b3bbe-9df2-11e7-8650-0000aacb35e&acdnat=1505905193_1aedbdf3504d68af06c22be379d45e28（日本語概要
<http://www.rehabilimemo.com/entry/2015/11/23/122930>）

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会・東京経済大学大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経 BP マーケティング社様に作製していただく大会結果 HP に本企画シートは掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しいたします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HP などに発表されていない)ものに限りません。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東支部・日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合は同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報記載しないでください。※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、提出してください